

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球列島の後期更新世陸生カメ類相とその古地理学的意義

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-06-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 亮雄, 太田, 英利, 大塚, 裕之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/638">http://hdl.handle.net/20.500.12000/638</a>

PS-10 琉球列島の後期更新世陸生カメ類相とその古地理学的意義  
(The Late Pleistocene fauna of terrestrial and freshwater turtles of the Ryukyu Archipelago, with special reference to its paleogeographical implications)

高橋亮雄<sup>1,2</sup>・太田英利<sup>2</sup>・大塚裕之<sup>3</sup> (Akio Takahashi, Hidetoshi Ota and Hiroyuki Otsuka)

<sup>1</sup>琉球大学理学部, <sup>2</sup>琉球大学熱帯生物圏研究センター西原研究室,  
<sup>3</sup>鹿児島大学総合研究博物館

琉球列島に広く分布する後期更新世のフィッシャーおよび洞穴堆積物からは、多様な陸生脊椎動物化石が豊富に産出している。これらの化石についての従来の研究は、琉球列島の後期更新世における地域個体群の消滅や化石種の存在を明らかにしてきた。その一方で従来の研究のほとんどは、化石の同定や系統的な位置づけにおいて適切な比較標本や解析法を欠いていたため、明らかな誤りを含む様々な問題を残してきた。このことを念頭にわれわれは、琉球列島の後期更新世陸生脊椎動物化石のうち、頑丈で保存されやすい多くの骨板からなる甲を持ち、個々の形態形質に対する系統的評価が比較的進んでいるカメ類を対象に、系統分類学的研究を行ってきた。これまでに得られた結果からすでに、琉球列島の第四紀における本系統の多様化の過程や歴史生物地理に関する多くの知見が得られている。琉球列島には1科3属3種の在来性陸生（淡水域を含む）カメ類（イシガメ科：リュウキュウヤマガメ *Geoemyda japonica*、ヤエヤマイシガメ *Mauremys mutica kami*、ヤエヤマセマルハコガメ *Cuora flavomarginata evelynae*）が分布しており、このうち前者は沖縄諸島の固有種、後二者は八重山諸島の固有亜種である。これらの分布域が示す地理的パターンは、中琉球（トカラ諸島南部+奄美諸島+沖縄諸島）が後期中新世から前期更新世の間に周辺の陸域から孤立し、その後、南琉球の宮古諸島と八重山諸島がそれぞれ中期および後期更新世に孤立したとする琉球列島の新生代後期の古地理仮説を支持する。一方、後期更新世の堆積物からは、リュウキュウヤマガメの化石が沖縄島と伊江島から確認されているほか、リクガメ科のオオヤマリクガメ *Manouria oyamai* が徳之島、伊江島、沖縄島、宮古島、与那国島から、リュウキュウヤマガメと同属の未記載種 *Geoemyda* sp. が徳之島から、日本本土の固有種であるニホンイシガメに近縁なイシガメ属の未記載種 *Mauremys* sp. が宮古島から、ヤエヤマセマルハコガメとは別種のセマルハコガメ属の一種 *Cuora* sp. が沖縄島から、それぞれ発見されている。さらに久米島からは、これまでに琉球から知られている陸生カメ類ともことなる種の化石が得られている。以上の結果から、後期更新世の陸生カメ類相は現在の2倍以上の種多様性を擁していたが、その多くがおよそ1万年前までに絶滅したことが明らかになった。また、現生の3属3種は絶滅から免れた結果、たまたま琉球列島の古地理仮説に合った分布パターンを示していることも示唆された。